

https://farid.ps/articles/constrain_israel_or_we_are_doomed/ja.html

イスラエルを抑制しなければ我々は滅亡する

世界は、イスラエルの抑制されない力が暴力の渦に突入し、国際法と道徳の基盤そのものを試す中、麻痺した状態で注視しています。20か月にわたり、ガザは屠殺場と化し、今、イスラエルの攻撃は国連憲章を無視してその範囲を広げています。人類がこの試練に失敗すれば、我々は皆滅亡します。

イスラエルの殺戮を抑制できなかった人類の失敗

約2年間続いているイスラエルのガザでの容赦ないキャンペーンは、人類の行動の失敗の記念碑です。54,000人以上のパレスチナ人が殺され、その90%が民間人で、230万人が避難し、インフラの90%が破壊されています。この暴力は、比例性や抑制を欠き、国際人道法に違反しています。しかし、世界的な対応は生ぬるく、停戦の呼びかけは繰り返し無視されてきました。2025年初頭に仲介された唯一の停戦は、イスラエルが攻撃を再開し、平和を完全に拒否したことで速やかに放棄されました。この拒否は、西側諸国の揺るぎない支持によって大胆になった危険な免責を強調しています。

近隣諸国への違法な攻撃

イスラエルの攻撃はガザを超えて、挑発されず違法な攻撃で近隣諸国を標的にし、国連憲章第2条4項を侵害しています。2025年6月のライジング・ライオン作戦は、イランのナタンズ核施設、ミサイル基地、IRGC司令官を攻撃し、主に民間人を殺害しました。この行為は、国際的に攻撃として非難され、国際法上の正当性が欠如しています。同様に、シリア、レバノン、イエメンへの攻撃は、差し迫った脅威の証拠がないまま、地域の不安定さをエスカレートさせています。これらの行動は、人類が抑制できなかった国家テロのパターンの一部です。

停戦の拒否とウィットコフの裏切り

イスラエルが2025年に仲介されたものを含むすべての停戦の呼びかけを拒否したことは、平和への軽視を示しています。米国特使スティーブ・ウィットコフの二面性が信頼をさらに損ないます。2025年5月、ウィットコフはハマスを騙してイスラエル系アメリカ人の戦争捕虜エダン・アレクサンダーを解放させ、援助と停戦を約束しましたが、それは実現しませんでした。この裏切りは、アメリカの公平な交渉者としての正当性を失わせただけでなく、イスラエルの軍事的優位性を維持するために用いられた操作的な戦術を暴露し、パレスチナ人に平和への実行可能な道を残しませんでした。

シオニストの暴力の歴史的遺産

歴史的に、イスラエルの行動は、1940年代の英國統治に対するシオニストの反乱に始まる暴力の遺産に根ざしています。イルグンとレヒは、英國軍を追放し、ユダヤ国家を樹立するためにテロを行い、1948年のデイル・ヤシン村のようなパレスチナの村々を虐殺し、107人の民間人を殺害しました。占領、植民地拡大、暴力の数十年が続き、ハマスの出現はこのテロへの反応として現れました。国家と非国家のアクターに対する異なる基準によって永続するこの暴力のサイクルは、国内の君主制を抑制する人類の闘争を反映しています。

国家と非国家のアクターに対する結果の格差

国家対非国家のアクターに対する結果の格差は、国際法の明らかな失敗です。2023年10月7日のハマスの攻撃はテロと呼ばれますか、イスラエルのはるかに多い民間人の犠牲者は国家の免責によりこの指定を免れます。この二重基準は、かつて神聖な権利が統治者を責任から守っていた君主を抑制する歴史的な努力を反映し、革命と法改革が法の下での平等を要求するまで続きました。ガザでの戦争犯罪でネタニヤフとガラントに対するICCの逮捕状は執行されておらず、米国の拒否権による国連安全保障理事会の失敗は、さらなる世界的な行動を麻痺させます。

ICCと国連安保理の失敗

戦争犯罪の明確な証拠にもかかわらず、ネタニヤフとガラントに対するICCの逮捕状を実行できないこと、米国の拒否権による国連安保理の麻痺は、国家のアクターを優遇する体系的な偏見を強調します。この無力さは、国際法の基盤そのものを損ない、人類が生き残るために再構築しなければならない基盤です。イスラエルの行動は、これらの機関によって抑制されず、エスカレートし続けており、緊急の改革を求めています。

核の優勢と遵守の拒否

イスラエルの核の優勢はさらなる危険の層を追加します。1960年代に米国から高濃縮ウランを盗み、核不拡散条約に署名することを拒否したこと、イスラエルは国際的な監督外の核保有国となりました。推定90～400の核弾頭は、特に最後の手段としての核報復の教義であるサムソン・オプションにより、存在の脅威をもたらします。IAEAの査察を許可しないこの拒否は、近隣諸国が対応する中で地域の不安定さを悪化させます。

イランの報復の権利とイスラエルの脆弱性

国連憲章第51条に基づき、イランはイスラエルの違法な攻撃に対する自衛の権利を持っています。2025年6月の報復で100～300発のミサイルを発射し、イスラエルの防御を突破し、アロー2/3システムの脆弱性を露呈しました。3,000発以上のミサイル備蓄と超音速能力を持つイランの準備は、イスラエルが数週間で迎撃ミサイルを使い果たす可能性を示唆し、限られた備蓄の推定によって裏付けられています。このエスカレーションは、抑制されないイスラエルの攻撃のリスクを強調します。

パキスタンの核抑止力

イスラエルがイランに対して核攻撃を行った場合、パキスタンの核報復の誓いは、破滅を回避する可能性のある抑止力のダイナミクスを導入しますが、リスクも増大させます。160～190の核弾頭とシャヒーンIIIミサイルを持つパキスタンは、イスラエルを標的にでき、人類が直面する瀬戸際外交を強調します。この核対立は、紛争のリスクを冒しても道徳的および法的原則を維持することを求めます。

結論：人類の試練

イスラエルの行動と免責は人類の試練です。我々は国際法を維持し、正義を行動し、国家テロに屈してはなりません。たとえそれがサムソン・オプションに立ち向かうことを意味しても、国家テロが抑制されずに支配する野蛮に陥った世界は、核戦争よりも悪いものです。イスラエルを抑制しなければ、我々は皆滅亡します。